

“特定能力”をもった 看護師が働く職場

2009(平成21)年8月「チーム医療を推進するため、日本の実情に即した医師と看護師等との協働・連携の在り方等について検討を行う」ことを目的に発足したチーム医療の推進に関する検討会を経て、2010(平成22)年3月19日に報告書「チーム医療の推進について」がとりまとめられた。それを踏まえて発足した「チーム医療推進会議」などで議論が進められ、昨年12月社会保障審議会医療部会に「看護師特定能力認証制度骨子(案)」が報告された。

本特集では、2008(平成20)年度より、従前の看護師の業務範囲を拡大した人材の養成教育に踏み切り、制度設計に向けての活動を行ってきた大分県立看護科学大学大学院修士課程の取り組みを振り返り、修了生がいま各施設でどのような役割を果たしているかを紹介する。

ここまでの「特定能力認証看護師」	294
草間朋子	
特定能力認証看護師の役割と養成教育の実際	296
藤内美保／小野美喜	
日本において特定能力認証看護師が誕生するまで	302
NPの養成開始までの足跡と制度化に向けての活動	
高野政子／福田広美	
看護管理者による特定能力認証看護師への支援	307
藤川桂子	
病院長(施設長)からみた特定能力認証看護師への期待	310
藤富 豊	
特定能力認証看護師としての1年を振り返る	313
村井恒之／廣瀬福美／光根美保／塩月成則	
養成課程修了後の研修システムへの提案	320
桜井礼子	
今後の課題と展望	322
葉玉哲夫／草間朋子	

注) 2011(平成23)年11月18日開催の厚生労働省チーム医療推進会議で検討・提示された「看護師特定能力認証制度骨子(案)」に示される特定行為を実施することができる看護師を、本特集では便宜上、特定能力認証看護師という。